



「かかわる力」を育成する幼小中一貫教育の活動と  
その特質(その4)  
-宮崎大学教育文化学部附属学校園の取組4  
「交流及び共同学習」-

メタデータ	言語: jpn 出版者: 宮崎大学教育文化学部附属教育協働開発センター 公開日: 2014-04-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 安藤, 真二, 鵜戸, 周成, 河原, 国男, Sinji, Ando, Udo, Shusei メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10458/5804">http://hdl.handle.net/10458/5804</a>

# 「かかわる力」を育成する幼小中一貫教育の活動とその特質 (その4)

## — 宮崎大学教育文化学部附属学校園の取組④ 「交流及び共同学習」の実践 —

安藤真二\* 鷗戸周成\*\* 河原国男

### The Characteristics of Unified Educational Activities from Kindergarten and to Early Secondary Levels in order to Foster Each Child's Abilities to Relate to Others and Things (Part4) : Focusing on Exchange Activities and Collaborative Learning with Intellectual Disabled Children

Sinji ANDO\*, Shusei UDO\*\*, and Kunio KAWAHARA

#### 1 はじめに

本稿は一連の論稿とともに(以下、本研究)、宮崎大学教育文化学部(平成28年度以降は教育学部)附属幼稚園・小学校・中学校(以下、3附属学校園)において「かかわる力」を育むということが一貫した教育目標としてどう位置付けられ、どのような教育活動として展開しているかをまとめ、その取組の特質を考察するものである。「かかわる力」の概念については、本研究の(本研究紀要、第24号掲載の同名論文その1)において規定した。とくに本稿では、その「かかわる力」を「交流及び共同学習」において育成しているものを取りあげる。障がいのある子どもと障がいのない子どもが、相互のふれ合いを通じて豊かな人間性を育むことを目的とする交流学習と、教科等のねらいの達成を目的とする共同学習との両側面をもった「交流及び共同学習」は、軽度の知的障がいのある児童・生徒が在籍する特別支援学級を含む本附属小・中学校でも積極的に展開し、「かかわる力」が育まれている。本稿は交流活動に着目してその一端を明らかにする。

#### 2 「かかわる力」を育む活動 — 「交流及び共同学習」において —

##### 1) 附属小学校 — 特別支援学級「おいでよ、いちようキッズランドへ」の実践 —

附属小学校には特別支援学級(通称「いちよう学級」)では、低・中・高学年それぞれ1学級を開設しており、平成27年度は10名の児童が在籍している。児童は、朝の会や学校行事、給食時間の会食等に通常の学級の児童とともに参加したり、可能な教科(家庭科など)は一緒に授業に参加したり、学級活動や生活単元学習等の時間を利用して、相互に企画した催しに参加したりするなどして、積極的に「交流及び共同学習」を推進している。

##### ① 生活単元学習「おいでよ、いちようキッズランドへ」の実践

次頁に記す活動は、特別支援学級(担当:外山千佳 矢動丸博士 村社弘之 山田慧美)が

\*宮崎大学教育文化学部附属中学校校長

\*\*同附属小学校校長

生活単元学習として企画した「おいでよ、いちようキッズランドへ」の実践である。

i) 単元名 おいでよ、いちようキッズランドへ

ii) 単元の目標

- 「いちようキッズランド」の準備や後片付けをしたり、友達とかかわりをもちながらルールを守って遊んだりしようとする。
- 教師や友達と一緒に遊び道具を考えることができる。
- 協力して「いちようキッズランド」の準備や後片付けをしたり、友達とかかわりをもちながらルールを守って仲よく遊んだりできる。
- 協力して活動することやルールを守って遊ぶことの大切さに気付くことができる。

以上の目標について、本研究でいう「かかわる力」に関する目標と関連づけると、何事に対しても、自分から、自分たちから取り組み、与えられた仕事を責任もってやりとげることができること期待する点で、とくに「課題遂行力」が相当する。

iii) 授業の実際（資料1）

資料1 附属小学校 「おいでよ、いちようキッズランドへ」の授業の実際

<p><b>遊びの体験</b></p>	<p>特別支援学級全員で、教師がつくった「いちようすごろく」で遊ばせることで、自分たちでつくって遊ぶ活動への関心や学習への見通しをもつことができるようにしました。「順番を守る」「さいころを1回だけふる」というルールを守りながら遊びました。遊びの中で、次の人にさいころを渡したり、同じ枠に入った友達に「一緒だね」と言ったりする姿が見られました。そして、これまでの体験をもとに、「他の遊びもしてみたい」「たくさんの友達や先生と遊びたい」という声も子どもたちから聞かれました。</p>		 <p>次の方はだれ。</p> <p>さいころ、どうぞ。</p> <p>はい。</p>
<p><b>「いちようキッズランド」の準備・特別支援学級の友達とのかかわり</b></p>	 <p>はっけよい、のこった。</p>	 <p>べたべたスタンプをして、看板をつくるぞ。</p>	
<p><b>通常の学級の子どもとのかかわり</b></p> <p>特別支援学級の子どもたちが準備した「いちようキッズランド」へ通常の学級の1年生を招待して、一緒に遊びました。遊び方やルールを説明したり、遊び道具を渡したり、「スタート」と言って合図を送ったりするなどの仕事をする姿が見られました。</p>	 <p>…をつくりました。</p>	 <p>はい、どうぞ。</p> <p>いっしょに遊ぼう。</p> <p>ありがとう。</p>	

以下の表は、この活動の全19時間分の「単元指導計画」（表1参照）、及び「いちようキッズランド」へ1年生招待時の「授業実践計画」（表2参照）である。

表1 附属小学校「おいでよ、いちようキッズランドへ」指導計画（19時間）

段階	主な学習活動及び学習内容	主な教師の支援
生み出す・2時間	1 教師がつくった遊び道具で遊ぶ。<1時間> ○ ルールの確認 ○ すごろく遊び	○ 特別支援学級の学習や行事等をふりかえることができる「いちようすごろく」を教師がつくり遊ばせることで、自分たちもつくって遊ぶ活動をする事への関心をもたせることができるようにする。
	2 単元の流れを知り、学習のめあてや学習計画を設定する。<1時間>  ○ めあて いちようキッズランドをつくってあそぼう。	○ 順番を守ってすごろく遊びをさせることで、友達と遊ぶ時にはルールを守ることが大事であることに気付くことができるようにする。  ○ 生み出す段階の学習を特別支援学級全員で行うことで、みんなで「いちようキッズランド」に取り組んでいくという見通しをもつことができるようにする。
挑む・9時間	3 「いちようキッズランド」の準備をする。<4時間> ○ 遊び道具の計画 ○ 遊び道具づくり ○ ルールの確認 ○ 説明のリハーサル ・ 遊び道具の説明 ・ 遊びのルールの説明	○ これまでに学習した「夏を楽しもう」や「秋を楽しもう」での活動について、写真を見せながらふりかえらせることで、つくりたい遊び道具を教師と一緒に考えることができるようにする。 ○ 誰が何をつくるか顔写真を貼って確認し、分担して取り組ませることで、協力して準備をすることができるようにする。 ○ つくった遊び道具で実際に遊びながらルールを確認させることで、順番を守る、交代で遊ぶ等、簡単なルールを守ることの大切気付くことができるようにする。 ○ マイクを使って説明をさせることで、相手に話そうとする意欲をもつことができるようにする ○ リハーサルの様子を録画し視聴させ、声の大きさや話す速さ、顔の向きについて自分の姿を確認させることで、よかった点や改善点に気付くことができるようにする。
	4 特別支援学級の友達や教師と一緒に遊ぶ。<5時間> ○ 「いちようキッズランド」での遊び① ・ 遊び道具やルールの説明 ・ 遊び ○ 遊び②の準備 ・ 遊び道具の修理  ○ 「いちようキッズランド」での遊び② ・ 遊び道具やルールの説明 ・ 遊び	○ 初めに、特別支援学級の友達や教師と遊ぶ場を設定することで、安心して活動に取り組むことができるようにする。 ○ 教師が側にいることで、安心して学級以外の友達や教師とかかわりをもつことができるようにする。 ○ 遊ぶ前にルールを確認したり、遊びのコーナーにルールを掲示したりすることで、ルールを意識し友達と一緒に遊ぶことができるようにする。 ○ 必要に応じて、これまでに学習した言葉のカードを見せたり模倣させたりすることで、要求や勧誘、感謝等の言葉を伝えることができるようにする。 ○ 特別支援学級の友達や教師と一緒に遊ぶ場を2回繰り返して設定することで、ルールがある遊びに慣れることができるようにする。

生 か す ・ 8 時 間	5 「いちょうキッズランド」へ1年生を招待して一緒に遊ぶ。 ＜8時間＞	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 招待状の作成</li> <li>○ 準備・リハーサル</li> <li>○ 1年生との遊び <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遊び道具やルールの説明</li> <li>・ 遊び</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 塗り絵や文字スタンプ、シール等を準備することで、進んで招待状の作成に取り組むことができるようにする。</li> <li>○ つくった遊び道具を置く位置にシールや遊び道具の写真を貼ることで、所定の場所に運び準備をすることができるようにする。</li> <li>○ 「いちょうキッズランド」へ通常の学級の1年生を招待し、一緒に遊ぶ体験をさせることで、他者とかかわりを広げることができるようにする。</li> <li>○ ルールを守って友達と仲よく遊んだり声掛けをしたりする姿を称賛することで、他者とかかわることの楽しさを感じることができるようにする。</li> </ul>

表2 附属小学校「おいでよ、いちょうキッズランドへ」授業実践計画（16時間目／19時間）

学習活動及び学習内容	主な教師の支援	用具・準備等
1 本時の学習について確認する。 ○ 本時のめあて <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ルールをまもっていっしょにあそぼう。</div> ○ 「いちょうキッズランド」で遊ぶ約束の確認 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遊びごとのルール</li> <li>・ 遊び終了の合図</li> <li>・ 歩く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習計画表を使い本時のめあてを伝えることで、本時は1年生と遊ぶ時間であることを確認できるようにする。</li> <li>○ 「静かに」と文字と絵で書かれた指示カードを示したりジェスチャーで合図を送ったりすることで、姿勢や話の聞き方を意識することができるようにする。</li> <li>○ 「いちょうキッズランド」の約束を掲示することで、遊び中にも確認することができるようにする。</li> </ul>	学習計画表  指示カード  約束カード
2 本時の学習への見通しをもつ。 ○ 学習の流れ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 説明→遊び①→遊び②→ふりかえり</li> </ul> ○ 遊び場所の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文字カード提示しながら学習の流れを確認させることで、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。</li> <li>○ 聞いている子どもに、説明をしている相手の方を見るように促すことで、友達の説明を聞くことができるようにする。</li> <li>○ 会場図を掲示しておくことで、活動の場所を視覚的に理解できるようにする。</li> </ul>	文字カード  会場図
3 遊び道具とルールを説明する。 ○ 遊び道具の説明 ○ 遊びのルールの説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもの顔写真を掲示することで、遊び道具や遊びのルールを説明する人や説明する順番を理解できるようにする。</li> <li>○ 説明が難しい子どもには、説明のカードの裏に書かれた文を見せたり、説明する言葉を促したり、教師の言葉を模倣させたりすることで、遊び道具やルールを説明することができるようにする。</li> <li>○ 説明する子どもにマイクを持たせたり、マイクを向けたりすることで、自分が説明をする順番であることを意識できるようにする。</li> </ul>	顔写真  ルールの説明カード  マイク 遊び道具
4 「いちょうキッズランド」で通常の学級の1年生と一緒に遊ぶ。 ○ 遊び① <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いちょう1組と1年生1班</li> <li>・ いちょう2組と1年生2班</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各コーナーに遊びのルールを書いたカードを掲示しておくことで、ルールを意識しながら遊ぶことができるようにする。</li> <li>○ 通常の学級の1年生に色別のアームバンドを身に付けさせることで、遊ぶ相手を理解することができるようにする。</li> <li>○ 特別支援学級の子どもに遊び道具を渡したり、遊び方を説明させたり、「スタート」の合図を言わせたりする役を分担してさせることで、責任をもって自分の仕事に取り組むことができるようにする。</li> </ul>	色別のアームバンド

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いちよう 3 組と 1 年生 3 班</li> <li>○ 遊び②</li> <li>・ いちよう 1 組と 1 年生 3 班</li> <li>・ いちよう 2 組と 1 年生 1 班</li> <li>・ いちよう 3 組と 1 年生 2 班</li> </ul> <p>5 本時の学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習の感想</li> <li>○ 次時の学習への見通し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人に慣れずに固まって活動に参加できない子どもを友達に誘わせたり教師が声掛けしたりすることで、活動に取り組むことができるようにする。</li> <li>○ 1 年生と一緒に遊ぶことができない子どもには、教師も一緒に遊ぶことで、かかわりをもちながら遊ぶことができるようにする。</li> <li>○ ルールを守り一緒に活動している姿を称賛することで、進んでかかわりをもとうとすることができるようにする。</li> <li>○ 遊びの中でルールを守って友達と遊んだり、「一緒にしよう」「入れて」「どうぞ」等、友達と一緒に遊ぶときに必要な言葉を言ったりしている姿を称賛することで、よりよいかかわりができるようにする。</li> <li>○ 感想を発表させたり、学習の様子を称賛したりすることで、ルールを守って一緒に遊ぶことの楽しさを感じることができるようになる。</li> <li>○ 各コーナーの担当教師が、ルールを守って遊んだり、進んでかかわりをもって活動したりしていた子どもの姿を称賛することで、次時もルールを守って一緒に遊ぶことができるようにする。</li> <li>○ 次時は、まだ一緒に遊んでいない友達と遊ぶことを確認することで、次時の活動への意欲をもつことができるようにする。</li> </ul>
---	---

## ② 「かかわる力」との関連

小学校での実践から、「かかわる力」はどのように育まれているだろうか。とくに「課題遂行力」が伸張している。

### ・遊びそのもの

遊びそのものに興味・関心をもち、遊びをとおしてルールを覚え、ルールがあることによって、「より楽しく遊びたい」「より楽しく遊ぶことができる」ということに気付く姿があった。

### ・特別支援学級の友達とのかかわり

特に、活動の準備段階においては、特別支援学級内児童相互のかかわりが主となる。低・中・高学年毎にみんなに提示する遊びを決め、その遊びのルールやその説明をどうするかという課題に、教師も支援しながら、取り組む姿が見られた。

### ・通常の学級の子どものかかわり

通常の学級の子どものかかわりの場面では、特別支援学級の子どもの遊びそのもののルールの説明を行い、順番を守って遊びに参加することの大切さを伝えるなどの姿が見られ、「与えられた仕事を責任もってやりとげる」という（課題遂行力）の育成に一定の成果のあった実践となった。

## 2) 附属中学校 — 3 学年交流・昼食交流・七夕交流を中心に —

本校には特別支援学級（担当：小野智宏・的野美穂子・日野文貴・児玉かおり・信時大輝）が各学年1学級設置（計3学級）されている。この特別支援学級（E級）と通常の学級との「交流及び共同学習」と「かかわる力」との関係について、その活動事例を整理した。

### ① 「交流及び共同学習」の目的と交流委員

#### 【通常の学級】

障がいについての理解を深め、E級生と自然に接することができる態度を育成する。



【特別支援学級】

いろんな集団と関わり合う中で、社会性を育てる。

以上の「交流及び共同学習」を効果的に実施するために、「交流委員」を設置している。その目的は次の2点に要約できる。

○交流及び共同学習を生徒自らが、計画し実施できるようにする。

○積極的な交流及び共同学習を推進する。

交流委員は、次のように活動する。

- ・学級に男女各1名以上は設置する（人数の制限など具体的な人数は設定しない）。
- ・生徒会組織や学級組織とは別に、活動する。
- ・任期は1年とするが、途中交代や増減も認める。

交流委員の現況は、下記表3、表4のとおりである。

表3 附属中学校 学級別交流委員の現況

	1A	1B	1C	1D	2A	2B	2C	2D	3A	3B	3C	3D	合計	通常	割合
男子	3	2	3	4	4	9	8	4	4	1	2	3	50	239	20.9
女子	9	7	2	4	3	6	6	3	4	4	7	6	58	237	24.5
計	12	9	5	8	7	15	14	7	8	5	9	9	108	476	22.7

表4 附属中学校 平成27年度交流年間計画

平成27年度 交流年間計画

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
第一学年	○宿泊研修 ○体育大会練習 ○昼食交流 ○ビオトープ交流			○七夕交流			○講話に向けての制作交流 ○書写交流	○各クラス金庫の交流				○各クラス金庫の交流
第二学年	○体育大会練習 ○昼食交流 ○ビオトープ交流					○各クラス金庫の交流 ○講話に向けての制作交流	○修学旅行前交流(お土産作り) ○書写交流	○修学旅行			○南緯交流	
第三学年	○体育大会練習 ○昼食交流 ○ビオトープ交流		○講話交流				○各クラス金庫の交流 ○書写交流 ○講話に向けての制作交流					○卒業の夜交流
全学年共通	○入学式 ○新入生対面式 ○昼食交流(校舎別)との連絡含む ○体育大会練習	○生徒総会 ○体育大会練習 ○体育大会 ○ビオトープ交流	○ビオトープ交流				○講話に向けての共同制作交流 ○書写交流	○講話 ○技術(校種)	○修学旅行		○立会式 ○合唱交流	○卒業式 ○合唱交流
<small>年間を通して、学年委員会、全校委員会、学年委員会などに参加し交流。昼食交流は、各学年ごとに計画的に実施する。</small>												

## ② 活動例

### ・3学年交流（平成26年度、昼食・書写・登山スケッチ旅行）

交流活動に強い拒否反応を示す生徒2人と交流の友達が来ると固まってしまう生徒2人が交流学級に行って活動ができるようになることを目標に交流を実施した。<sup>1)</sup>

### ・手紙交流と昼食交流（平成26年、第1学年）

E級の生徒が1年A～D級の教室に行き、交流委員の対応を受けて、手紙を読んで（拍手を通常の学級生徒からもらう）から食事をするという活動。

### ・第2学年昼食交流（平成27年度）

昼食交流を通して、通常の学級の生徒は、E級の生徒のことを知り、接し方を考えるの機会にするとともに、E級の生徒は、交流委員と過ごすことで、交流委員の名前と顔を知る。お互いに、今後の交流について見通しや安心感を培うという活動。具体的には、E級教室で昼食をとりながら、交流委員とE級の生徒の顔合わせや自己紹介を行う。

1回目は、2年A～D級が日替わりでクラスごとにE級教室にて昼食交流した。2回目は、2年A～D級の生徒が各学級2名、計8名が、E級教室にて昼食交流した。<sup>2)</sup>

### ・第1学年七夕交流（平成27年度、学級活動の時間）

七夕飾りの作成を通して、通常の学級の生徒は、E級の生徒の顔や名前を覚え、対応の仕方を考える機会にするとともに、E級の生徒は、通常の学級の生徒の顔や名前を覚えたり、自分の交流学級を意識し、一緒に作業を行うことで交流を深めさせる。<sup>3)</sup>

## ③ 生徒の反応

以上の活動を通じて、生徒たちはどのような反応を示したか、下記にまとめた。「かかわる力」については、どの活動も概ね「傾聴力・発信力」や「状況把握力」を主として生かすことができる活動であろう。結果として、交流の目的を達成できれば、「課題遂行力」も関係してくると考えられる（表5）。

表5 附属中学校 交流活動における生徒の反応

時期	E級の生徒の主な反応	通常の学級の生徒の反応
1年 手紙 交流 と 昼 食 交 流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊張した。</li> <li>・ちゃんと読めてよかった。</li> <li>・拍手がうれしかった。</li> <li>・ちょっと声が小さかったと思う。</li> <li>・みんなに会えてうれしかった。</li> <li>・頑張った。</li> <li>・ドキドキしたけど、一生懸命読んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊張が伝わってきて、すごく頑張っていると思った。</li> <li>・私も人前で言うのは苦手なので、気持ちがよく分かる。</li> <li>・一緒に行動したことが喜んでくれているのがうれしかった。</li> <li>・何と言っているのかわからないところもあったが、頑張っていると思った。</li> </ul>
1年 七 夕 交 流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しかった。</li> <li>・友だちの名前を覚えることができた。</li> <li>・一緒に紙飛行機を作った。</li> <li>・お願い事を書けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒に交流できて、楽しかった。</li> <li>・頑張っている姿や苦手な部分、楽しそうにポーズをとる様子等から、意外な一面を知ることができた。</li> </ul>

## ④ まとめ

通常の学級と特別支援学級との「交流及び共同学習」は、「かかわる力」を育む、という点でどのような貢献をしているか、以下にまとめておく。



5つの能力のうち、附属中の場合、これまでの活動実績から、主として「傾聴力・発信力」や「状況把握力」を生かすことができる活動であることがうかがわれる。その際、以下の点についての要素がその結果に影響を与えらると思われる。

1) 「かかわる力」育成のためのキーマン

①学年職員の共通意識・共通理解

交流及び共同学習の目的を十分に理解し、生徒たちが主体的に計画・実施できるよう具体的な指導・支援を行う。生徒ならではの豊かな発想を引き出す、等の役割を果たしている。

②①により鍛えられ、育成された各学級の交流委員

③特別支援学級職員の通常の学級の生徒への具体的な関わり

E級の生徒に関わり、彼らの可能性を引き出すことはもちろん、通常の学級の生徒に対しても、手がかり等を具体的に援助することが肝要である。

2) 交流等の「年間計画」を確実に実施すること

各学年主任が中心となり各種の行事等（1年生の例、宿泊研修、体育大会練習、昼食交流、ピオトープ交流、七夕交流、橘祭に向けての制作交流、書写交流、各クラス企画の交流など）において、「交流」を意図的に実施していく、ということについて意志疎通・学年共有化を図ることである。

今後の可能性として、下記の点が考えられる。

・特別支援学級等の保護者への披露機会の確保（参観日、体育大会、橘祭、立志式、その他の行事、E級通信等）

・校外活動への参加（遠足、宿泊研修、修学旅行、登山旅行等）

・幼稚園・小学校との連携（いちょう学級との交流、それ以外の連携の可能性）

## 2) への注

1) 活動例①（平成26年度3学年交流）について、その具体的計画とその実施状況を以下明らかにする。

小学校の経験から、交流活動に強い拒否反応を示す生徒が2人（A・B）。交流の友達と仲良くしたいが、交流の友達が来ると固まってしまう生徒が2人（C・D）。交流学級に行って、活動ができるようになることを目標に交流を計画した。

4月～5月

目標：学年の先生と交流委員を覚える。

・まず、3学年の先生方と昼食交流。その後交流委員と学級担任の先生と昼食交流（資料2）。

### 資料2 附属中学校 第3学年との昼食交流



7月

目標：教室に入る。

- ・書写交流 直前までAとBは嫌がるが、勉強であること、国語の渡邊先生と勉強できること、授業が始まって後ろから教室に入ること、教室に入って書写をすることができた（資料3）。

#### 資料3 附属中学校 第1学年との書写交流



11月

目標：一人ずつ各バスに乗って、登山スケッチ旅行に参加する。

- ・登山スケッチ旅行 バスに分かれて一人ずつ乗ることでみんな緊張していたが、旅行前に交流委員と昼食交流をしたことで、すんなりバスに乗ることができた。帰りのバスでは、A・Bの二人はバスの前で、交流学級のみannaにお礼の言葉を言うことができた（資料4）。

#### 資料4 附属中学校 第3学年との登山スケッチ旅行での交流



年が明けてからは、3年生入試前とインフルエンザの流行という事で、交流学級に行って昼食を食べる最終目標を達成することができなかった。しかし、強い拒否反応を示していたAとBは、E級で行う交流活動に関しては楽しみにするようになってきた。また、AはE級での昼食交流の際、一人で交流委員を交流学級へ呼びに行くことができた。固まっていたCとDは、話しかけ方を練習したことで、自分から交流委員の生徒に話しかけることができるようになってきた。

2) 活動例②（第2学年 第2回交流計画 「昼食交流②」）について、その具体的計画と実施を以下に明らかにする。

目的

- A～D級：通常の学校

E級生徒のことを知り、接し方を考え、体育大会や今後の交流の仕方について見通しをもつ。

- E級：特別支援学級

所属学級の交流委員と過ごすことで、質問や会話ができる交流委員を増やし、体育大会や今後の交流への安心感をもつ。

日時

## ○ 平成27年5月

14日(木) A~D級(各学級2名ずつ) 15日(金) A~D級(各学級2名ずつ)

18日(月) A~D級(各学級2名ずつ) 19日(火) A~D級(各学級2名ずつ)

22日(金) 予備日

## 場所

○ 2E教室

## 活動内容

○ 昼食をとりながらの、交流委員(学級ごとに2名ずつ)とE級の生徒との交流(資料5)。

## 活動の流れ

○ 4校時終了後、E級生は机・椅子の準備

○ A~D級生は、牛乳・弁当を持って2E

○ 自己紹介および会食

○ 昼食後に写真撮影(時間がない場合は後日撮影)

## まとめ

今回は、自分の交流学級ではない生徒とも交流したが、今回は自分の交流学級の生徒全員と交流を行うことで、体育大会での交流につながる親睦を深めることができた。体育大会での不安も減り、学年団技への意欲も見せていた。

## 資料5 附属中学校 第2学年との昼食交流



3) 活動例③(第1学年 七夕交流)について、その具体的計画と実施状況を以下明らかにする。

## 目的

○ E級の生徒は、交流学級で過ごし、通常の学級の生徒の顔や名前を覚えたり、自分の交流学級を意識したりするとともに、道具の貸し借りや一緒に短冊を書く作業を通して交流を深めていく。

○ 通常の学級の生徒は、同じ学年のE級生と過ごすことで、顔や名前を覚え、思いやりの気持ちを高めたり、対応の仕方を考えたりする。

日時 6月23日 5校時・・・A級 6校時・・・C級

6月24日~25日の間の学活の時間

※ A~Dの学活の時間をずらして設定し、E級生4人が、全学級の学活に入る。

※ 通常の学級の時間割担当とE級の時間割担当で、活動できる時間を設定する。

場所 1年A級~D級教室 (4名とも参加)

内容 七夕飾りの作成など(資料6)

流れ 00~05 A級~D級 各学級での準備

※授業最初から行かせた方がよければお知らせください。

E級 各学級へ移動

※教室の前までは、いすを持って移動しておきます。

05～40 交流活動 ※持って行った方がよいものがあればお知らせください。

40～50 A級～D級 各学級での振り返り

45 E級 E級教室に移動、振り返り

振り返り

（E級の生徒）

- ・楽しかった。
- ・友だちの名前を覚えることができた。
- ・一緒に紙飛行機を作った。
- ・お願い事を書けた。

全員が楽しみながら活動ができた。2クラス終わった時点で、「自分から話しかける」「聞かれたら大きな声で答える」「交流の友だちの名前を二人覚える」「ポーズをとるのを頑張る」などの目標を立てたが、振り返りで、全員が目標を達成できたと言えた。

緊張も見られたが、自分らしさを出して話をしたり、勇気を出して質問したりできていた。

（A～D級の生徒）

- ・一緒に交流できて、楽しかった。
- ・意外な一面を知ることができた。

宿泊研修や、体育大会の練習・本番などで、自分の交流学級のE級生とは、話したことがあっても、それ以外のE級生とのかかわりが初めての生徒もいたが、全体的に楽しかったという感想であった。

また、E級生の頑張っている姿や苦手な部分、楽しそうにポーズをとる様子などを見て、意外な一面を知ることができたという感想も少なくはなかった。

資料6 附属中学校 第1学年との七夕交流



### 3 考察

本稿では、「交流及び共同学習」のうち、とくに「交流学習」に焦点化して、小中学校の代表的な取組状況を明らかにした。小学校の実践「おいでよ、いちようキッズランドへ」では、いちよう学級児童と通常の学級の1年児童とが、招待状を送って、「紙ずもう」「輪投げ」「かるた」などの遊びを通じて、通常の学級の子どもたちと楽しく交流するという点で、とりわけ「課題遂行能力」の育成に効果があった。中学校の実践（学年交流）では、特別支援学級（E級）と通常の学級の生徒とが七夕飾りを通じて、昼食を通じて、あるいは手紙のやりとりを通じて交流するという点で、とりわけ「傾聴力・発信力」、「状況把握力」の育成に効果があった。

附属小・中学校ともにこうした交流活動のみならず、教科、行事等を通じて「共同学習」を行っていることも、ここに指摘しておこう。

小学校では、教科等において、いちよう学級児童の個々の状況に応じて、下学年で主に生活、音楽、図画工作、体育の学習の一部で、上学年では音楽、図画工作、家庭、体育の学習の一部で「共同学習」を行っている。これらの教科での学習は、学校行事に関連する学習内容が多い。例えば、5月に実施する学校行事「ささの葉運動会」に向けて、体育学習において表現運動（ダ

ンス)を共に学ぶ。表現そのものの練習をとおして、年度当初に友達づくりが行われ、また学級・学年の所属感を感じるようになる。表現の動きを教えたり、できたことを喜び合ったりして集団で表現するよさや楽しさを味わうことができている。12月に行われる5年の学年行事「市音楽発表大会」に向けて、音楽の時間には合唱と合奏の練習を行う。その学習をとおして、友達とのかかわりながら、自分なりの歌や演奏をよりよいものにしようと努力する姿が見られる。3月の6年が主となる「卒業式・お別れ式」に向けては、歌の練習を音楽で、式の練習を学級活動等で練習して、卒業式の当日を迎える。下学年は、どのように6年生を送り出すか、6年生はどのような姿で卒業式に参加し、卒業していくかを全員で考え、体現することとなる。

小学校におけるこれらの教科等を基盤とした学校行事等となる共同学習を「かかわる力」の育成の観点で整理すれば、双方の児童の「傾聴力・発信力」、「状況把握力」に加えて「方法選択力」の育成も顕著に認められる。

中学校において、書写の「共同学習」でE級の生徒は、最初に全体指導による一斉指導を受ける。この場面をあえて設定することで隣に座っている交流委員にわからないことを尋ねる機会を意図的につくる。これによって聞き方、伝え方を鍛えることができる。E級の生徒は、共同学習を受けるに当たって、事前に聞き方の練習や、困ったときの伝え方などをロールプレイングを通して学んだ成果が発揮できた。書いたあと、相手を見て「ここがいい」「ここはこのようにはねるといいよ」など互いに気づいたことやを思いを伝える機会をつくった。また「第3学年登山旅行」では、通常の学級生徒と一緒に登山をし、互いにがんばっている姿を目にした。応援してもらうことで、最後まであきらめずに登頂できたE級の生徒がいた。下山後に実施したフォークダンスでは、通常の学級の男子生徒が、E級の生徒ができないところをさりげなくサポートする姿が見られた。

中学校におけるこうした「学校行事」を含む共同的活動を「かかわる力」の育成という観点から捉えれば、特別支援学級と通常の学級生徒のとりわけ「傾聴力・発信力」や「状況把握力」の育成に効果があり、双方にとって得られるものが大きい。

以上のように小学校・中学校での「共同学習」の実践では、明確に「交流」場面が設定されている「交流学习」とは違って、より自然な形で、年間を通じて、おりおりに双方が出会う場面が用意されている。そうした活動が伴い、附属小・中学校では、「交流及び共同学習」として成り立っている。「交流学习」は「共同学習」に対して、「共同学習」は「交流学习」に対して、それぞれ促進的な作用を示していると考えられる。こうした実践は、特別支援学級の児童生徒のみならず、通常の学級の児童生徒の成長にとっても有益である。相互の理解を深めながら、「かかわる力」、とりわけ共生社会の実現に資する「かかわる力」の育成に貢献し、一人一人の自立と社会参加につながる活動として不可欠な役割を果たしている。

#### 執筆分担：

- 1 河原国男
- 2 1) 鶴戸周成  
2) 安藤真二
- 3 河原国男、安藤真二、鶴戸周成